

総合的な学習の時間 (チャレンジ学習) 部会

司会者 元島 由香利 (旭川市立陵雲小学校教諭)
助言者 玉井 一行 (旭川市立大有小学校校長)
助言者 小野 敦司 (旭川市立末広北小学校校長)

I 授業の部会から ※主なものを抜粋

教育課程について

- 附属旭川小学校の総合的な学習の時間の教育課程はどのような探究課題を設定しているのか。
- 第3学年から第6学年までの児童の発達段階を考慮しながら、学習指導要領に示されている「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」「地域や学校の特色に応じた課題」「児童の興味・関心に基づく課題」をバランスよく設定している。また、ここ数年は、毎年新たな単元を最低一つは開発している。



総合的な学習の時間(チャレンジ学習)部会

単元開発について

- 公開した『『川のまち旭川』調査隊』の授業を、どのように開発したのか。
- 総合的な学習の時間においては各学校の教育目標を踏まえて、育成を目指す資質・能力を考慮することが許されている。そのような性格をもつ総合的な学習の時間であるからこそ、子供たちの実態や、学習材がもつ価値を十分に考慮しながら、資質・能力を設定している。単元で育みたい資質・能力が明確になったら、知識の習得から活用・発揮へと学習活動が発展していくような探究のプロセスの過程を考えている。その際、今年度の紀要の研究視点1で示した「1次：発見過程→2次：追究過程→3次：表現過程」の視点を重視している。

評価について

- 三つの柱として新たに位置付けられた「知識及び技能」はどのように見取るのか。また、毎時間の見取りはどのようにしているのか。
- 「知識及び技能」は、イメージマップを使った児童の自己評価で見取っている。現在、事前調査、1次、2次、3次の「まとめ・表現」の場面で、イメージマップを使った自己評価を行っており、そのイメージマップに書かれている内容が、評価規準に到達しているかどうかを見取るとともに、授業改善にも役立てている。毎時間の見取りには、振り返りの記述を活用している。評価規準の設定の仕方や見取り方については、今後も研究していく必要性を感じている。

必然性について

- 研究視点1に、「表現過程(3次)での活動が、児童にとって必然性があること」と明記されているが、児童が3次で抱く必然性とはどのようなものか。
- 私が考える児童の必然性とは次の通りである。「川のまち旭川と呼ばれている理由は『川が多いから』『橋が多いから』だけではない。しかし、旭川市民はそれを分かっている人が少ない。だから、私たちはその理由を旭川市民に伝えたいので、川について学んだことを発表する。」

II 助言者からの講評 ※要点のみ

(1) 玉井 一行 校長先生から

【日常の実践とのつながりについて】

今日の授業は日常実践の積み上げを感じた授業だった。社会科の学習問題づくりを大事にしてきたことや、国語の授業で言葉にこだわっていたことが子供の姿から感じられた。このように、総合的な学習の授業では、日々の実践とつなげて授業を行うことが重要である。

【地域とのつながりについて】

今回公開した授業のような地域と学ぶ総合的な学習の授業はとても楽しいし、単元開発をする価値がある。そのためには、教師が率先して地域で体験をすることが重要。自分が体験してみないと、そのよさはなかなか子供たちに伝えられない。よって、地域を題材とした単元を開発する際は、率先して教師がいろいろな場所に足を運ぶとよい。

【今後の研究について】

総合的な学習の時間は、各教科で身に付けた資質・能力を総合的に活用・発揮し、知識及び技能を関連付けて概念化すること、思考力・判断力・表現力等が活用場面と結び付いて多様な文脈で使えるものとなることが重要である。今後も引き続き、これらのことを具現化できるような研究を目指してほしい。

(2) 小野 敦司 校長先生から

【学級づくりのよさについて】

違いを認め合う学級づくりができていた。日頃から友達同士の意見を尊重して、みんなで一つの方に向かって協力するという姿勢を大事にしたり、教師も常にそういうところをサポートしたりしていると感じた。子供同士で認め合うことももちろん大事であるが、私はあなたの意見とは違うという思いをはっきり言えることも重要である。それができているところがすばらしい。

【学び方について】

日常的に子供たちが思考ツールを使っているのだから、使いこなすことができている。「こういうことを考えたいから、このツールを使うとよい。」というレベルまで達しているのだから、考えることを技として扱っている。思考ツールを選び取れるところや、どうすればみんなで考え、分析していけるのかが分かっているところがすばらしかった。

【学びのコーディネートについて】

全ての子供が活躍することを意図した授業だと感じた。一人一人の得意分野や特徴が教師の頭の中に入っていた。子供たちが主体的に学んでいるように見えても、実は教師がコントロールしている状況が、指名の仕方、子供のつぶやきを拾ったり、問い返したりする姿から見られた。

【今後の研究について】

探究的な学習を作るために教師に求められることは、教師の待ちの姿勢、子供同士の発言をつなげたり、専門家と子供たちをつなげたりすること、子供たちを褒めて気持ちをのせること、新たな発見や課題に気付かせること、主体的・対話的に学ぶ子供の姿を認めることである。これからも、これらのことを大事にして研究を進めてほしい。

